

日経ナショナルジオグラフィック社 編集長・藤田 宏之
Hiroyuki FUJITA, Editorial Director,
Nikkei National Geographic Inc.



○藤田座長

初めまして。日経ナショナルジオグラフィック社という出版社で、ナショナルジオグラフィックという雑誌の日本版を編集しております。富永さんに駆り出されたと自分では思っていますが、とても大切なテーマを任されたと緊張しています。私たちの雑誌でも野生生物の保護については、創刊した120年前から、大きなテーマとして取り上げてきています。ではペットの世界はどうか、というと、意外に記事が少ない。人間と一緒に暮らしている動物たちの話については案外盲点になっているかなと、米国でも言われています。

これがちょうど今発売している号なのですが、「犬の遺伝子」という巻頭特集を組んでいます。私たちとしては大変珍しい企画と思っています。ジャングルとかサバンナとかで撮影した大型哺乳類の写真が雑誌の売り物の一つなのですが、スタジオでわんちゃんたちを撮った写真をドキュメンタリーとして真っ向から紹介している企画は、100年の歴史の中でも珍しいかなと思っています。事ほどさように、人と動物のかかわりというのが、都市化が進んでくる中でやっぱり深く、あるいは変わりつつあるのだと思います。では、その中で私たち一人ひとりがどういうふうに動物とかかわっていけばいいのかという大きなテーマを考えていかなければいけない時代なのかなと思っています。

このセッションは、今回の会議の中でも異色のテーマで、講師の方々も皆さん専門家ですが、それぞれ微妙に違ったフィールドで違った活動をされている先生方です。だからこそ、世の中と動物とのかかわり、あるいは今の日本の社会と動物とのかかわりが少しでも浮き彫りになって、皆さんがお帰りになるときに、何か自分の中でできることという視点で得るものを持って帰っていただけたら光栄です。多分、勉強になる、知識を得るというよりは、何かを考えて感じるスタートになるような議論がここでできたら成功なのか、と、ちょっと生意気ですけども思っています。

それでは早速ですが、最初に、去年の東日本大震災

の以前から、そして震災の後も石巻で動物救護活動をされていらっしゃるあべ動物病院院長の阿部俊範先生にお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

